



第58号

発行
山辺地区社会福祉協議会
事務局
山辺公民館内
TEL 0284(71)0516

- すなおな心 (はい)
- 反省の心 (すみません)
- 謙虚な心 (おかげさま)
- 奉仕の心 (私がします)
- 感謝の心 (ありがとう)
- 山辺地区日常五心



元気な山辺中学生の店頭へ市長のエールが

地区住民の日頃の芸能・芸術・手芸・クラブ活動等の発表の場であり、住民交流の場でもある地区文化祭は、老若男女・健常者も障がい者も園児も共に参加交流できる場で、本年も10月14、15日、公民館を会場に開催された。当社協は来場の皆さんに向けて模擬店「社協屋」を出店。今年の天候不順を象徴するように二日目模擬店の当日は

冷たい雨にも負けず、地域の連帯力を発揮

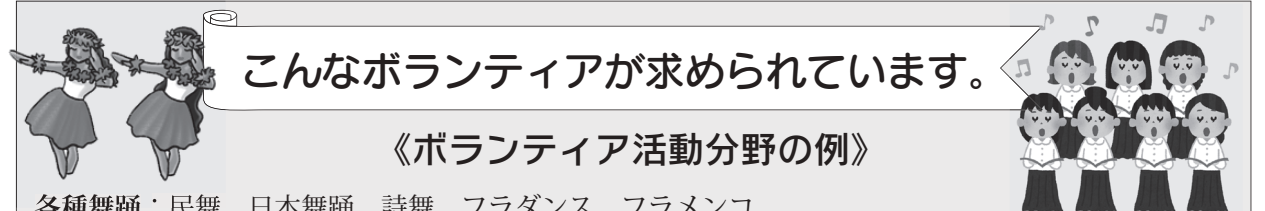
地区文化祭・模擬店「社協屋」

冷たい雨。前日の準備作業時に降られなかったのがせめてもの幸いで、調理室と7張のテント下で予定通りの出店実施。来賓・出演者・出展者等は例年通りだったが、一般来場者の減少は仕方なかった。協力頂けたボランティアは、調理品は独居老人給食委員・育成会(本部と借宿町)、屋台品は山辺中学生5名、手芸品・バザー品即売は子育てサロン委員。延べで前日準備で60名、当日84名(後日乾燥後のテナト片づけに8名)という多勢が集ってくれて、悪天候の中でも動じる事無く和やかに実施することができた。更に食材や手芸品・バザー品等を寄附して頂いた地区内篤志の方々(下段に記載)。そして社協屋のお料理や手芸・バザー品をお買い上げ頂いたお客様の方々。すばらしい模擬店に仕上げてくれたこれら関係する全ての皆様に心から感謝申し上げます。

- 模擬店へ寄附御礼
ありがとうございました。
- 三田 敏夫様 お米
 - 石川 商店様 調理用ガス
 - 三田 忠良様 じゃがいも
 - 吉住 知子様 じゃがいも
 - 清水 弘子様 じゃがいも
 - 仁木 明子様 じゃがいも
 - 樋口 茂延様 じゃがいも
 - 阿左美 徑子様 手芸品
 - 北村 フシ子様 手芸品
 - 清水 弘子様 手芸品
 - 長島 世津子様 手芸品
 - 伊藤 眞津枝様 手芸品
 - 平田 節子様 手芸品
 - 佐藤 祥一郎様 手芸品
 - 山崎 和子様 手芸品
 - 半田 まり子様 手芸品
 - 川崎 フミ様 手芸品
 - 小林 芳子様 手芸品
 - 橋本 静江様 手芸品
 - 菅 弘武様 手芸品
 - 堀越 恵美子様 手芸品
 - 萩原 恵美子様 手芸品
 - 高瀬 雅子様 手芸品
 - 増田 晴美様 手芸品
 - 上岡 恵子様 手芸品
 - 匿名希望 名様 手芸品

山辺地区社協に ボランティア登録しませんか

山辺地区にお住まい又は本部を置く個人・グループ・団体のみなさんへ
高齢者施設や子ども・障がい者施設、地域サロンなどへの訪問ボランティアを山辺地区社協に登録して、活動の機会をふやしませんか。(新規募集キャンペーン)



こんなボランティアが求められています。

《ボランティア活動分野の例》

- 各種舞踊：民舞、日本舞踊、詩舞、フラダンス、フラメンコ
 - 音楽演奏：太鼓、三味線、ギター、オカリナ、大正琴、管楽器、弦楽器、ハーモニカ
 - 歌：コーラス、歌唱リード、歌謡、民謡、吟詠
 - その他：健康体操リード、手品、手芸、折り紙、落語、民話、語り、傾聴、囲碁、将棋、労力奉仕
- ※全て無報酬のボランティア活動となります。

- ・紹介名簿を作成し、市内の各施設・団体に送付して、ボランティア機会を増やします。
- ・通年のボランティア保険加入サービスを付与致します。
- ・当事業は10年前より発足、これまでに30を超える個人・団体が登録され活動してきており、利用者側からのお礼の言葉も多数届けられています。
- ・登録は山辺公民館窓口で「福祉ボランティア登録申請書」にご記入・ご提出下さい。



救援品を送った山辺の有志
記念誌より

第12回 山辺の今昔譚
「日本整形外科の父
田代義徳博士の
足跡を尋ねて」

その五母校に思いを馳せて

58才(大正11年)、母校山辺小学校は明治6年の開校当時、児童数90名程でスタートした。その後、地域の発展に伴い児童数も増加し、大正11年には八八六名に急増した。そこで取り急ぎ校舎の増改築、校庭の拡張工事を行った。その竣工記念式典の講演会講師として義徳博士が招かれたのである。第一回卒業生でもあり、ドイツ留学を果たし、東大医学部教授でもある博士に

白羽の矢が立った訳である。山辺小百年誌に講話を聴く児童たちの様子が次の様に描かれている。

「先生はヨーロッパのお話をしてくれました。服装のこと、乗物のこと、建物のこと、遊びのこと等です。子どもたちはヨーロッパの様子を想像しながら、目を光らせて聞き入っていました。」
又、講演会には山辺地区の大人の有志も参加していた。

翌大正12年9月1日、関東地方を未曾有の大地震が襲い、京浜地帯に壊滅的打撃を与えた。この地震により、秋葉原の田代病院も本郷の自宅も全壊してしまった。それを知った山辺地区の青年団や婦人会等の有志が、博士に救援品を送った。

博士は大変感激し、翌大正13年、山辺小創立50周年祝賀会で再度講演した。この年博士は東大を定年退職した。

退職後については次号で。

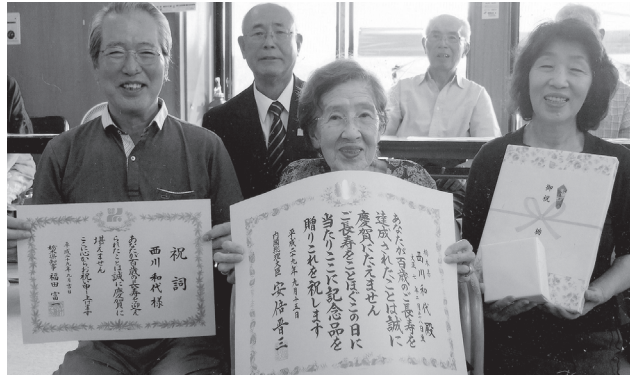
地域の見守り・支え合いがより求められる社会。当社協として「見守り福祉協力員制度」を、住民の「近助パワー」を活用することで更に充実します。ご協力下さい。(次号詳述)

支部だより・敬老会
今年も元気に再会できました

今年の敬老の日は9月18日。9月に入り各所で恒例の敬老会が開かれた。全市で一四六町会場と六八の施設で二二、九三三名が対象。当山辺地区22町では合同開催もあり14会場で二、七五五名が対象。

地区社協の支部登録をしている9町より、支部だよりとして状況を紹介します。

八幡一丁目支部・式典後の余興は参加者のラウオケ中心に



百歳祝詞を喜び合う西川和代さんご家族



95才の熱演・福地市次さん

楽しむ。

借宿一丁目支部・例年通り4町合同で実施。子ども代表の言葉の後はラウオケで賑やかに交流を図った。

中川町支部・式典には子ども会代表の激励の言葉もあり、余興に町内の方の踊り、三味線歌。終盤は生バンドに合わせて懐かしい歌の合唱で盛況。

西新井町支部・今年も招待者・役員等60名以上の参加で開催。トピックスは、めでたく百才を迎えられた西川和代さんが出席され、国、県、市の首長の表彰状の授与が行われたこと。

高齢者が元気で和やかに暮らせる誇れる町内との謝辞もあり、後半の余興も盛り上がった。

堀込二丁目支部・堀込三町合同の開催。対象者一三八に役員・余興出演者二四〇名出席。演芸の部ではキッズダンスに元気を貰ったり、95才の福地市次さんが元気に歌を披露された。

朝倉二丁目支部・例年通り今年も来賓と招待者約60名の参加で式典が行われ、その後の余



救急安心キット!! 備えておいたか?

備えていますか? 万一の時、救急隊員に知って貰う為に、自分の身内、緊急連絡先、掛かり付け医者、持病、飲んでる薬、等をメモした用紙を入れた筒を冷蔵庫に入れて置くシステムです。社協と救急消防隊との取決めで成立している仕組みです。

何も知らずに駆けつけてくれる救急隊員には素早い対応が求められますが、その為の情報収集は隊員にとって必須であり、的確な情報をいち早く得られれば緊急措置も搬送病院の選定も早まり、親族への連絡等も着実に実施できます。

も身近におられる方には必要ありませんが、そこでない方の為の救急特効品です。その為のルールが、「シール貼付と、記入済用紙と筒と冷蔵庫保管」です。ルールに反していると救急隊員には見つけて貰えず何の役にも立ちませぬ。

新規希望者は地域担当民生委員へご連絡下さい。設置可能対象者はA 65才以上の独居高齢者、B 65才以上の高齢者夫婦のみの世帯、C 居間独居・独居障害者等特に希望する方です。公民館窓口でも相談に応じてくれます。

山辺中PTA懇談会

生徒への思いを共有するために

今年も7月26日に地区内3会場にて開催された。出席は、先生、PTA役員を含む保護者、民生委員・主任児童委員等で学校と地域で生徒達との関係が深い方々。学校公開で目撃した状況、クラブ活動、お稽古事への取組ませ方、地域ボランティア、スマホへの対応等、結論を出すのではなく情報・思いを共有することを主眼として、各グループとも大いに話題が弾んだ。この内、ある断片を紹介する。

嘗ての山辺中の様に今荒れていると言われるK中より4月に転動したと自己紹介された若いK先生に単刀直入にK中と山辺中の違いを聞いてみた。

「規律違反やっていたところに先生が来る。山辺中生徒はやめるがK中生は、先生が何だ、オシはやる、と続ける。見てほしい、かまっしてほしいの気がある。先生の目が届いていないのか。荒れている子の家の家庭訪問では家も大変な状況。山辺はそういうことが少ない」

端的ながら実に意味深長な言葉であった。

学校、家庭、地域等が相乗的、有機的に安定した相互信頼関係で結ばれ、経済的基盤もしっかりしてこないといふような風土は生まれまいだろう。更にたゆまぬ努力を続けよう。

視覚障がい者のためのパソコン教室を開催

7月6日、スターレーンにて開催。参加は視覚障がい者福祉協会や点訳等の支援「あいの会」会員・支援者、そして山辺地区社協の面々等総勢約40名。

開会式では視障会須藤会長の挨拶で、山辺地区社協の障がい者福祉活動尽力への感謝と、かつて自身のトラック走で伴走サポートしてくれた当社協阿久田理事への感謝とエピソードが語られ、大きな拍手がわく。

又、同会長から、視覚障がい者へのサポートの注意点の詳細が語られ非常に参考になった。

即ち、歩行時は上り・下り・距離を言葉で的確に表明伝達、握手して半歩先導、狭い所は手を後にしてガイド、イス等には必ず触らせて、等々。

ゲームは11チームにてガター防止壁付レーンにて行われ、この壁を巧妙に利用して打球するワザも披露され、真剣に高得点を狙うサポーターを尻目にそれを上回る得点を上げる障がい者もおられ大いに盛り上がり、和やかな交流が図れた。



開始前の着座待機のひとつ

赤い羽根共同募金、何に使われているの?

使途事例に当社協子育てサロンが発表

赤い羽根等募金シーズンを迎えるべくイベントが市社協の主催でプラザにて開かれた。

当市の昨年実績は自治会経由各戸からの募金を主体に約一千

四百万、この使途は45%の六五〇万が市社協に配分され、内7割の五〇〇万が敬老事業や地区社協のふれあいサロン・見守り事業等の地域福祉の補助金に繰り込まれる。他の55%は高齢者・障がい者・子供等の福祉団体・組織等への補助金へ。

主催者側の紹介説明の後、大阪ボランティア協会永井美佳事務局長の司会で、募金使途事例発表が3件。内当社協は高瀬理事より子育てサロンの実状を発表した。歯科医の講話・奉仕検診が定期的に行われていることや感動を受けた事例等解り易い発表であった。

他に矢場川地区のふれあいサロンの事例、障がい児者支援事業の交流バスツアーへの参加経験談、があり感動を呼んだ。赤い羽根募金とは全く別だが、「歳末助けあい募金」もある。これも自治会経由各戸からの募金を主体に法人・団体・街頭募金等で約一千三百万となり、50%が支援を必要とする世帯や障がい児者への支援等、残り50%が地区社協に配分され、独居高齢者特別友愛訪問と特別会食会の原資・ふれあいサロン等への助成の一部になっている。